

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

大阪 OSAKA あそび歩 ASOBO

近代大阪の未来は西にあり！ ～大坂一の魚市・雑喉場から江之子島政府まで～

明治7年(1874)、江之子島に2階建て煉瓦造りのルネッサンス様式の初代大阪府庁舎が竣工しました。川口居留地に近く、西欧の文物・制度を移入するため、また大阪は将来、西に向かって発展すると予想されたため、当時、大阪府民は「江之子島政府」と呼びました。

- 1 信濃橋洋画研究所跡碑**
大阪に香り高い文化を根づかせようと、大阪出身の洋画家小出楯重・国枝金三・鍋井克之らが中心になって、大正13年(1924)に開設された信濃橋洋画研究所は、理論と実技を組み合わせた特色ある教育を行い、多くの専門画家を輩出しました。その後、研究所は昭和6年(1931)中之島に移り、中之島洋画研究所と改称しましたが、昭和19年(1944)戦争激化に伴い閉鎖されました。
- 2 大塩平八郎終焉の地碑**
大塩平八郎(1793～1837)は、江戸時代後期大坂町奉行所の与力で、陽明学者としても知られ、世を治める者の政治姿勢を問い、民衆の師父と慕われました。天保8年(1837)2月19日飢饉にあえぐ民を救い、政治腐敗の根源を断とうとして、門人の武士・農民等を率いて決起しました。乱後大塩父子は、この地に隣接した鞆油掛町の美吉屋五郎兵衛宅に潜伏しましたが、同年3月27日幕吏の包囲のうちに自焼して果てたとされます。
- 3 鞆(うつば)公園**
鞆塩干魚市場の跡地にあたります。太平洋戦争後、占領軍に接収されましたが、昭和27年(1952)の講和条約で大阪市に返還され、その後、公園として整備されました。
- 4 大阪科学技術館**
「科学技術でひらこう、地球のあした」をテーマに、最新の科学技術を展示しております。私たちの暮らしの中に生かされているエネルギー、エレクトロニクス、バイオテクノロジー、地球環境など、さまざまな分野の最新の科学技術をクイズやゲーム、マルチメディアで楽しく学べます。敷地は五代友厚の屋敷跡です。
- 5 梶井基次郎碑、飛行場跡説明碑**
梶井基次郎は、明治34年(1901)、旧西区土佐堀通5丁目生まれで、旧制北野中学在学時に鞆に住んでいました。東京帝国大学在学時に同人誌「青空」を創刊、代表作「檸檬」を発表。公園には「檸檬」の一節が刻まれた石碑があります。また戦後、米軍に接収された時代には、小型機発着空港として利用されたので、その説明碑もあります。



- 16 阿波堀川跡碑**
阿波堀川は阿波座堀川とも呼ばれ、西区にあった堀川の中でもっとも古く、慶長5年(1600)に開削され、西横堀川から分流して西に流れ、百間堀川に流入していました。昭和31年(1956)9月、大阪府の防潮堤工事などのため全部埋め立てられました。
- 15 天満宮神幸御上陸地碑**
天神祭のクライマックス、船渡御は、戦後の地盤沈下によって船が橋をくぐれなくなったため、今は大川上流に向いますが、明治期から昭和初期までの渡御コースは、大川から堂島川、木津川へと進み、木津川橋下手の江之子島に上陸後、陸路、松島の天満宮行宮の御旅所を目指す船渡御、陸渡御列だったようです。
- 14 旧大阪府庁 江之子島庁舎跡**
明治7年(1874)に西町奉行所(現・中央区本町橋)にあった大阪府庁が当地に移転しました。川口居留地に近く、西欧の文化制度を移入するに好適だったこと、大阪は将来、西に向かって発展すると予想されたため、府民は「江之子島政府」と呼びました。
- 13 木津川橋碑**
慶応4年(1868)に架けられました。外国人の居留地が建設された川口と、大阪の行政の中心地だった江之子島を結んだ橋は、大阪と海外を結ぶ架け橋にもなりました。
- 12 旧大阪市役所江之子島庁舎跡**
明治22年(1889)4月、市制導入により大阪市が誕生しました。府知事が市長を兼務し、府庁内に市役所が置かれていましたが、同32年(1899)、府庁の北側・木津川東詰に市役所を移転しました。庁舎は木造2階建てで、同45年(1912)、堂島庁舎に移転するまで存続しました。
- 11 雑喉場橋跡**
雑喉場市場の百間堀川に架かっていた橋です。昆布佃煮の老舗「神宗(かんそう)」は、かつて雑喉場橋東詰で商いを営んでいました。神宗・淀屋橋店には当時の雑喉場商人の気質を守りたいと、雑喉場橋の親柱が、今でも保存されています。